

「地域の主権を大切に、 ミュニシパリズムの広がり」

講師：岸本 聡子さん

東京都杉並区長



日付	3月29日(水) 19:00~21:00
会場	オンライン
参加人数	65人 参加費 無料
担当委員会	政策方針参画委員会

内容報告

【セミナー内容】セミナーは二部形式で実施した。第一部は岸本氏による45分の講演、続く参加者を交えた45分のQ&Aセッション、第二部は参加者と第一部の感想や意見を交換する約20分のセッションであった。区長就任前の岸本氏は、欧州を拠点に環境問題に取り組むと同時に、多様性やジェンダー平等の問題にも深くかかわってきた。これらの問題は独立して起こるわけではなく、互いに複雑に影響しあっているからである。

「ミュニシパリズム」とは、選挙による間接民主主義に限定せず、地域に根付いた自治的な民主主義による合意を目指すものだ。ボトムアップで地域から国政を変えようというムーブメントであり、欧州や南米が発祥である。欧州諸国のEU加盟が、人権や公共財、民主主義を逆に脅かすきっかけとなった。ミュニシパリズムのはじまりの一つは、失った公共財を取り戻す住民運動である。岸本氏は前職（トランスナショナル研究所）の仕事上で、また欧州在住の当事者として本活動に関わってきた。

ミュニシパリズムは①運動(The movement)②地方政治(Power)③地域経済(The Economy)の三つの要素からなる。これら3要素が互いに影響しあう。①には、近年欧州で頻発する労働者のストライキがある。水道や電気といった公共財を新自由主義の下で民営化したことにより、エネルギー価格上昇が抑えられず、物価上昇に給与が追いつかないのが一因である。また教員を含むケアワーカーの待遇の低さも要因の一つである。

②は地方政治の権力を取ることに、具体的には2020年フランスの統一地方選にて、7地域で同時に女性市長が誕生したことをきっかけに始まったムーブメントがある。既存の大きな政党ではなく、地域に根差した小さな政党の、新しい候補者擁立の試みが注目され、票を伸ばした。スペインのバルセロナでは、住宅、電力、水の権利などを主張する「バルセロナ・コモンズ」がより女性の政治参加を促す仕組みを作り(政治のフェミニゼーション)、男性中心の政治に象徴される、競争、秘密主義、力による弾圧ではなく、女性が得意とする協調、対話、当事者への共感力、弱者への想像力による解決を強調する政治へと変化させている。

③では、地域経済を活性化するために公共の再生、住民の政治への直接参加、地域経済の実装が必要であると述べられた。杉並区では、図書館司書や給食調理業務などが入札を経て民間委託されているが、実務を担う有資格の職員はほぼ最低賃金で有期雇用の非正規労働者だ。入札を、地域経済活性化に寄与するものとし、ジェンダー平等への配慮などを考慮した、情報請求に応えられる透明性がある制度に変えることが重要である。

Q&Aでは、学校給食費無償化の問題や、男性中心の議会の難しさ、岸本氏が欧州に住んでいながら杉並区長として立候補するに至った経緯やそれを支えた区民運動などに話が及んだ。最後に、岸本氏ご自身のこれまでの活動や今後目指す政策等をわかりやすくまとめたサイトとして以下の2リンクが紹介された。

- ① <https://www.kishimotosatoko.net/> ② <https://www.kishimotosatoko.net/kouenkai>